

9980

自昭和十四年八月十一日
至昭和十四年八月三十一日

七部之内第七號

富水河孟戰鬥詳報

第三十三師團通信隊

(1233)

1

1028

自昭和十四年八月十五日
至昭和十四年八月三十一日
富水河孟戰鬥詳報目次

第一 作戰開始前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

第二 通信實施ニ影響ヲ及シタル氣象地形及空界狀態

第三 富水河孟作戰經過ノ概要

第四 作戰間ニ於ケル江原部隊ノ行動經過通信連絡及關係各部隊行動ノ概要

第五 自八月十一日至八月三十一日間無線通信實施ノ
景況

第六 戰鬥後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

第七 其他將來ノ參考トナルベキ事項

附圖 富水河孟戰鬥經過要圖

附表第一 自八月十一日至八月二十二日間無線通信確實

施景況表

附表第二 第三十三師團通信隊死傷表

附表第三 第三十三師團通信隊彈藥電池損耗表

附錄第一 富水河孟作戰關係作戰命令寫

附錄第二 富水河孟作戰土動部隊編成表

附錄第三 富水河孟作戰間通信所勤務員編成表

自昭和十四年八月十一日
至昭和十四年八月二十二日
富水河孟作戰詳報目次終

自八月十一日富水河五戰鬪詳報 第三十三師團通信隊
至八月二十五日

第一作戰開始前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

第一九戰區司令官代理蒞岳ハ八月二日附命令ヲ以テ各挺進軍及第一九戰區各部隊ニ更ニ積極的攻撃ヲ要求セリ

整備備地区内ニ躊躇シアリシ第一九七師ノ主力ハ依然梅田ヨリ大畹鎮附近ニ在リシモ各整備部隊ノ適切不斷討伐ニ依リ逐次潛伏シアリシガ八月初旬以來第三師第一三師及第一四師一部ノ梅港沈眞鋪揚芳林附近ニ侵入スルト共ニ通山橋林橋及梅田大畹鎮附近ノ敵ハ遂次跳梁ヲ開始シ游撃漸ク活潑トナレリ

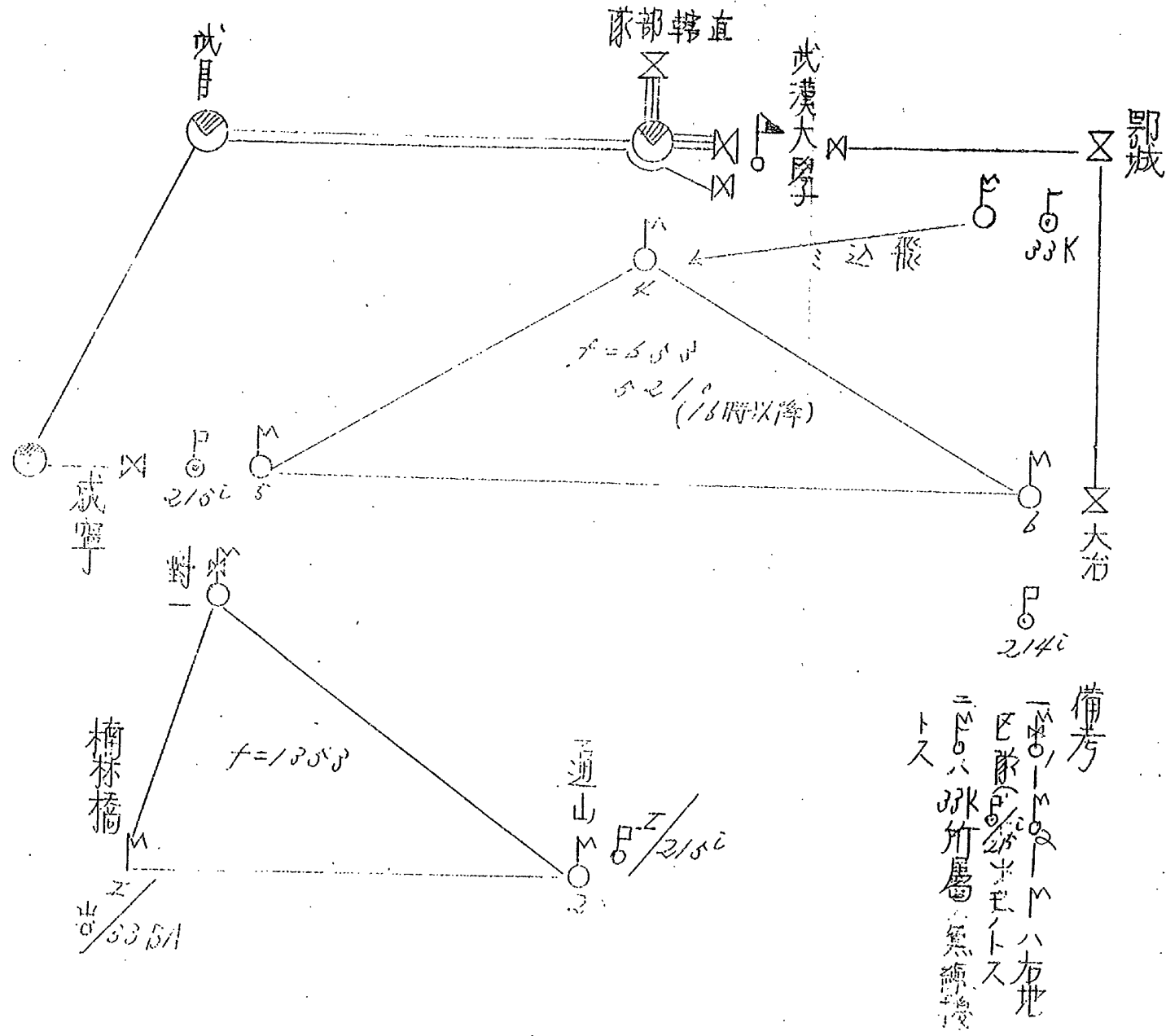
是ニ於テ師團ハ之ガ剿滅ノ爲八月月中旬左右兩地区

隊ノ主カヲ以テ討伐ヲ實施スルニ決シ各部隊ハ重師
 作命甲第三十八號(附録参照)ニ基キ着々準備ス
 ルトコロアリ

當時ニ於ケル敵情重師作命甲第三十八號(附圖
 (附録参照)ノ如シ

2. 師團通信隊主カハ左記要圖其ノ如キ通信網
 ヲ以テ警備通信ニ任シアリシガ七日附重師作命申
 第三十八號並作命丙第十五號(附録参照)ニ基キ
 通信網ノ構成變更並兵力増加ニ關スル江作命
 第四十三號(附録参照)ヲ下達シ遂次討代ノ態勢
 ニ移ル 即チ八月八日エド田曹長以下十六名(ハ
 無線第三分隊及第六分隊ノ増員)ハ大治ニハ
 月九日佐藤少尉以下十六名(無線第五分隊及
 對空無線第一分隊並ニ威寧有線通信所増員)

(一其) 江原部隊通信網圖
(於八月十七日正午)



咸寧ニ到ル
 尚九日近藤少尉(武漢大學予師團司令部)在
 武昌管原部隊飛行場間ノ有線通信網構
 成ニ任シ十三時連絡完了セリ
 討伐開始前ニ於ケル江原部隊ノ通信網左記
 要圖其ノニ如シ

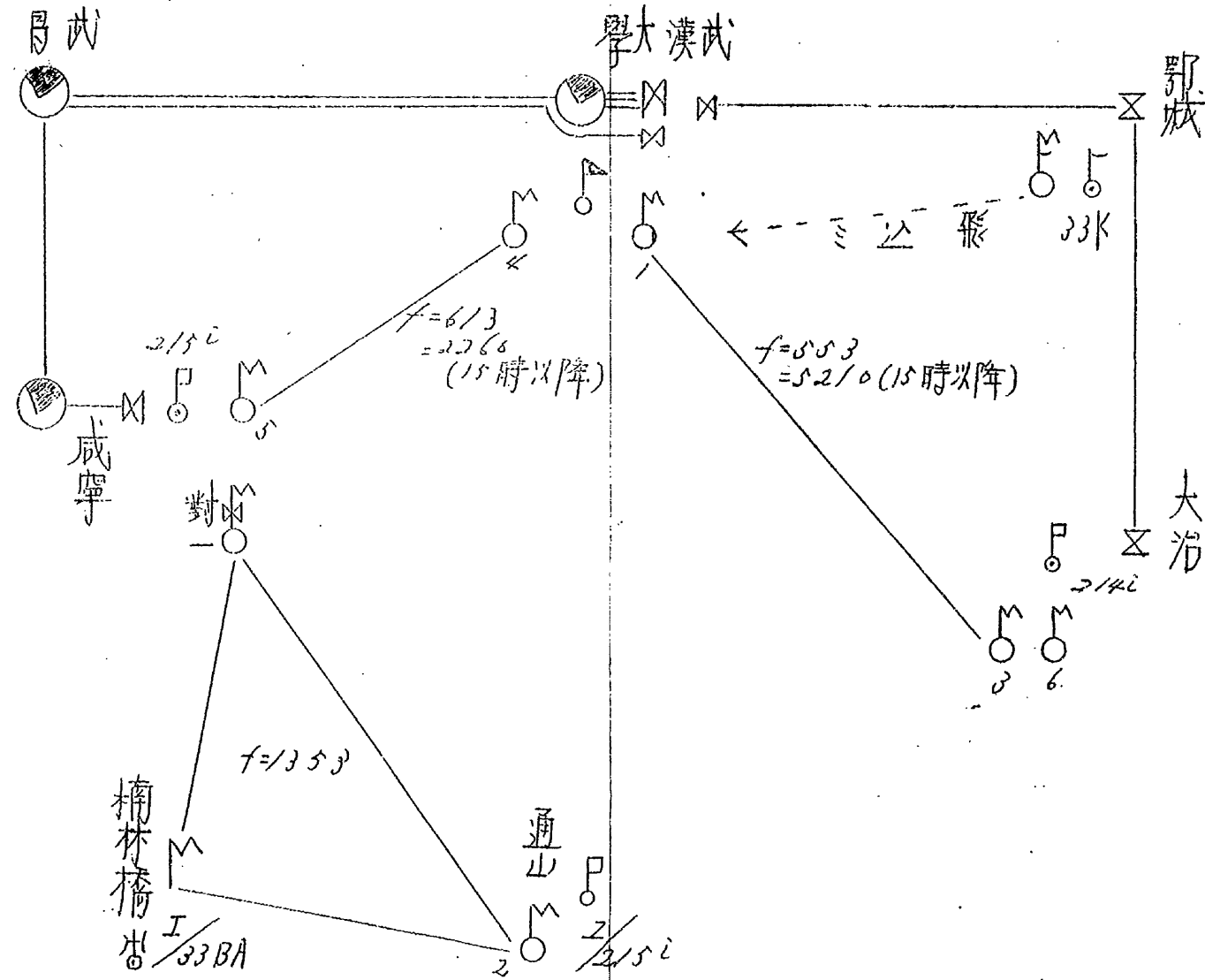
左記

備考
 M 無線電
 P 無線電
 Z 無線電
 S 無線電
 A 無線電

(=其)圖要網信通隊部原江
(午正日十月八於)

別紙

備考
一、 M_2 對 M_1 布地隊 (P/215) 配屈無線トス
二、 M_3 八九日七時ヲ以テ交代セリ



第一通信實質施ニ影響有ラ及シタル氣象地形及空界ノ

状態

本作戰間天候良好ニシテ通信特ニ無線通信ノ實質ニ支障有ラ及シタルコトナシ

作戦地域ハ概シテ山地アルモ標高五〇〇米ヲ出ヅルモノ稀ニシテ通信所ノ選定宜シキヲ得ハ尙地形ノ影響ヲ受クルコトナシ

天候良好ナリト雖モ夏季ニシテ雷多ク一般ニ正午頃ヨリ漸次空電ノ妨害ヲ受ケタ刻最モ甚シク通信ニ支障ヲ生ズルニ至ルモ夜ニ入り再び減少ス

時刻ハ天候ニ依リ異ナルモ概ネ十八時乃至二十時ニ至レバ通信實質施ニ支障ナキヲ通常トス

午前ハ空電ノ影響日ヲ受クルコト極メテ少シ然ルニ電報送受ノ容量ノ増減ハ概ネ空電ノ強弱ニ

一致スルヲ以テ通信實施ノ円滑ヲ欠クト屢ニナリ

第三 富水河孟作戦経過ノ概要附圖ノ如シ

第四 作戦間ニ於ケル江原部隊ノ行動経過通信連絡
及関係部隊行動ノ概要

八月十一日 晴天

右地区討伐隊ノ一部ハ五時咸寧ヲ出發高屋嶮ニ
向ヒ前進セシガ佐藤少尉ノ指揮スル無線分隊ハ討
伐隊本部ト共ニ咸寧ニ在リ

濱田中佐ノ指揮スル左地区討伐隊ハ二十時大泊出
發夜行軍ヲ以テ大畷鎮ニ向ヒ前進ス道傍甚ゾ不
良ナリ及チ昔田曹長及第六分隊駄馬ハ討伐隊ト行
動ヲ共ニシ無線隊第三分隊ハ大泊ニ殘留シテ師團司
令部左地区討伐隊及大泊左地区隊本部間ノ連
絡ニ任ゼントセシガ當日ハ終ニ連絡ヲ實施スルニ至ラズ

兩地区隊本部ニ在ル有線通信所員ハ依然司令部
トノ通信所勤務ニ服ス

當日ニ於ケル無線通信網ノ状態十日正午ト變化ナシ

八月十一日 晴天

右地区討伐隊本部ハ八時咸寧ヲ出發楠林橋ニ向
リ對空第一分隊ハ咸寧ニ殘留シ佐藤少尉及無線
第五分隊ハ本部ト行動ヲ共ニ十三時三十分楠林橋
ニ到着ス直ニ同所ニ開設シテ武漢大學子司令部
ト咸寧ニ殘留部隊間ノ連絡ヲ開始セントセシガ空
電ニ妨ゲラレ意ノ如クナラス十五時連絡完了セリ
夜ニ入り電報多キニ拘ラズ空電甚ダシク終ニ翌朝二時
ニ及ブ一時三十分頃ヨリ東方山地ニ盛ニ銃聲ヲ聞ク
左討伐隊主力ハ依然山間ノ難路ヲ冒シ前進シ九時
三十分花猶樹ニ於テ先頭部隊敵ト遭遇ス

無線分隊ハ十二時花猶樹ニ至リ開設シテ電報ノ送
受ニ任ズ十三時部隊ノ前進ニ伴ヒ十三時三十分閉所
シテ之ニ續行シニ溪口ニ向フ途中陽清附近ヨリ抵
抗スル敵ヲ撃破シツ、十九時ニ溪口ニ入ル

十三時連絡完了シ一時三十分閉所スニ十三時頃混
信アリテ連絡困難特ニ武漢大學ニ在ル第一分隊
ノ感度低シ然レ共敵弾盛ニニ部隊ニ飛來シ部
隊外ニ開設スルコトヲ許サズ

有線通信連絡ノ景況變化ナシ
當日ニ於ケル無線通信網別祇要圖ノ如シ

八月十三日 晴後雨

右地ニ討伐隊本部ハ依然楠林橋ニ在リ

五時連絡完了ス十三時頃ヨリ空電少キモ感度低ク
且混信アリテ受信困難ニ陥ルモ猶連絡ニ任ズ

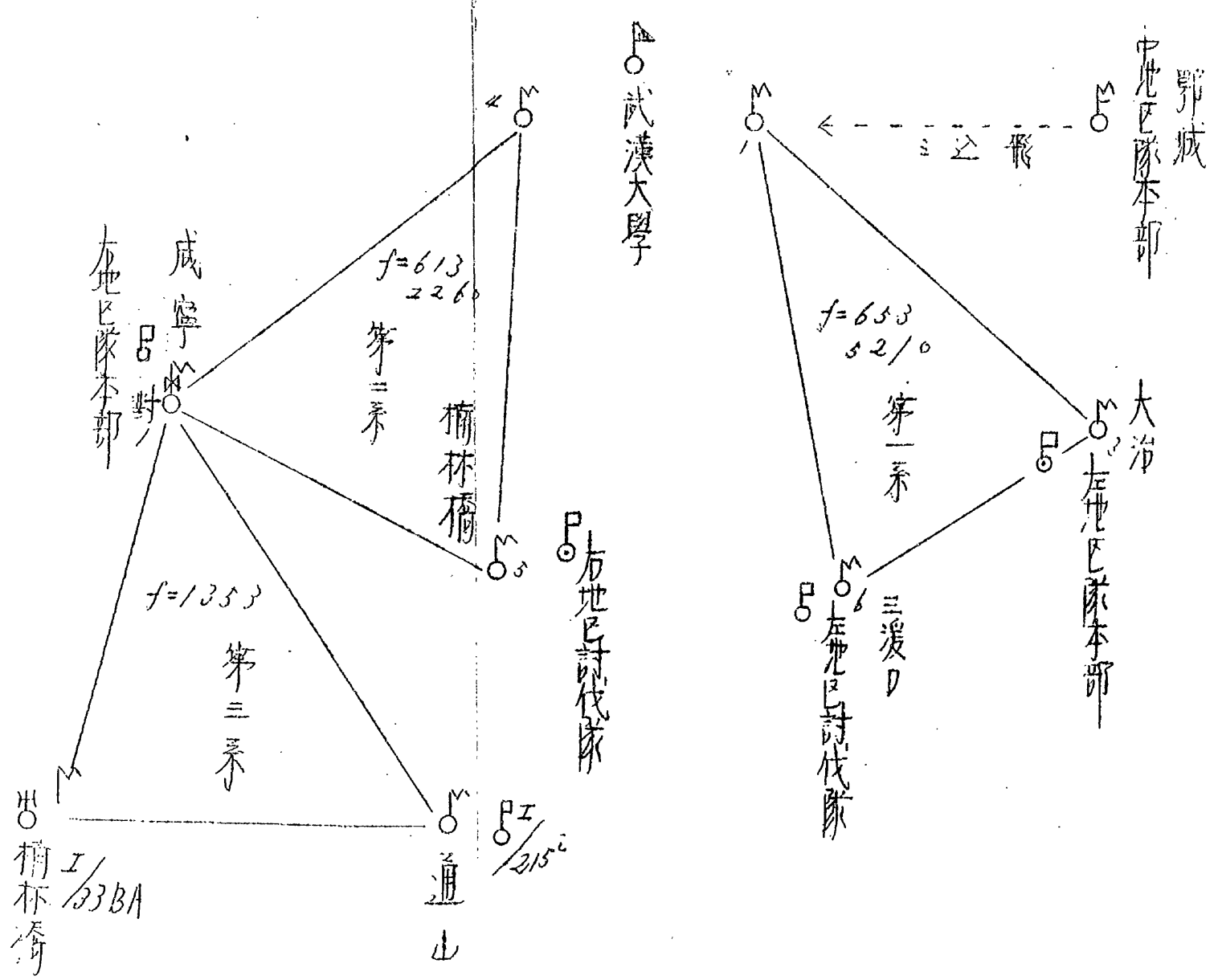
9280

無線通信網圖
(於十月二十三日)

別紙

連絡時刻

第一系	7-
第二系	9-
第三系	11- 14- 16- 18- 23-



1041

1039

此ノ頃銃聲盛ントナリ十四時三十分池田部隊主
カハ歩兵第三百十五聯隊第三大隊ハ之ヲ攻撃ス夜
ニ入り銃砲聲止マズ一時閉所ス

左地区討伐隊ハ六時三十分ニ後口ヲ出發シ大平
塘ニ向フ途中道路不良ニシテ駄馬・谷川ニ轉落
セシコト五回ニ及ブモ幸ニシテ器杖具狀ナキヲ得タリ
十二時連絡ヲ爲シタルモ電報ノ送受ヲナスニ至ラズ
ニテ出發トナル 暑氣甚シク日射病患有續發
シ行軍難澁ヲ極ム

十八時大平塘ニ到着ス二十時連絡完了シ翌朝
ニ時三十分閉所ス連絡ノ狀況概ネ良好ナリ
師團司令部威寧及大治各通信所勤務員
ハ依然前任務ニ服シアリ

本日ノ通信網尤記要圖ノ如シ

八月十四日 晴天

右地区隊討伐隊本部ハ楠林橋ニ在リ討伐隊ハ主
カヲ以テ梅港沈附近ノ敵ヲ急襲捕獲ヲ企圖シ目下之
カ準備中ナリ

佐藤少尉以下楠林橋ニ在リテ連絡ニ在ズ

午前中ハ空界リ良好ナリシガ十八時頃ヨリ雷鳴ノ爲
空電大トナルモ二十時頃ニ至リ連絡良好トナレリ十
四時頃ヨリ銃聲盛ニ下リ通信所附近ニ敵彈飛
來ス電報送受頻繁ニシテ十五日ニ時ニ及ブ

左地区隊討伐隊ハ六時三十分ハ大平塘出發黄沙
鋪ニ向フ前進スルコトニ打ニシテ後方ヨリ敵ノ攻撃ヲ
受ケシテ以テ吉田曹長ハ通信所ヲ援護ノ爲伊藤
一等兵ヲ分隊長トシ部下五名ヲ率テ大平塘北方
高地ノ占領ヲ命ズ是ニ於テ分隊長ハ直チニ前進

ニテ高地ヲ占領シ敵情偵察中八時五分頭部
貫通銃創ニテ戦死シ遂ク

討伐隊ハ交戦ニ時間ニシテ之ヲ撃退シ九時再ビ前進
ヲ開始ス殆ト休憩ナキ強行軍ヲ實施シ十九時黄
沙鋪ニ到着ニ十時開設シテ連絡ニ任シ翌三時三十
分迄電報ヲ送受ス

本日ニ於ケル通信網前日ト變化ナシ

八月十五日 晴後雨

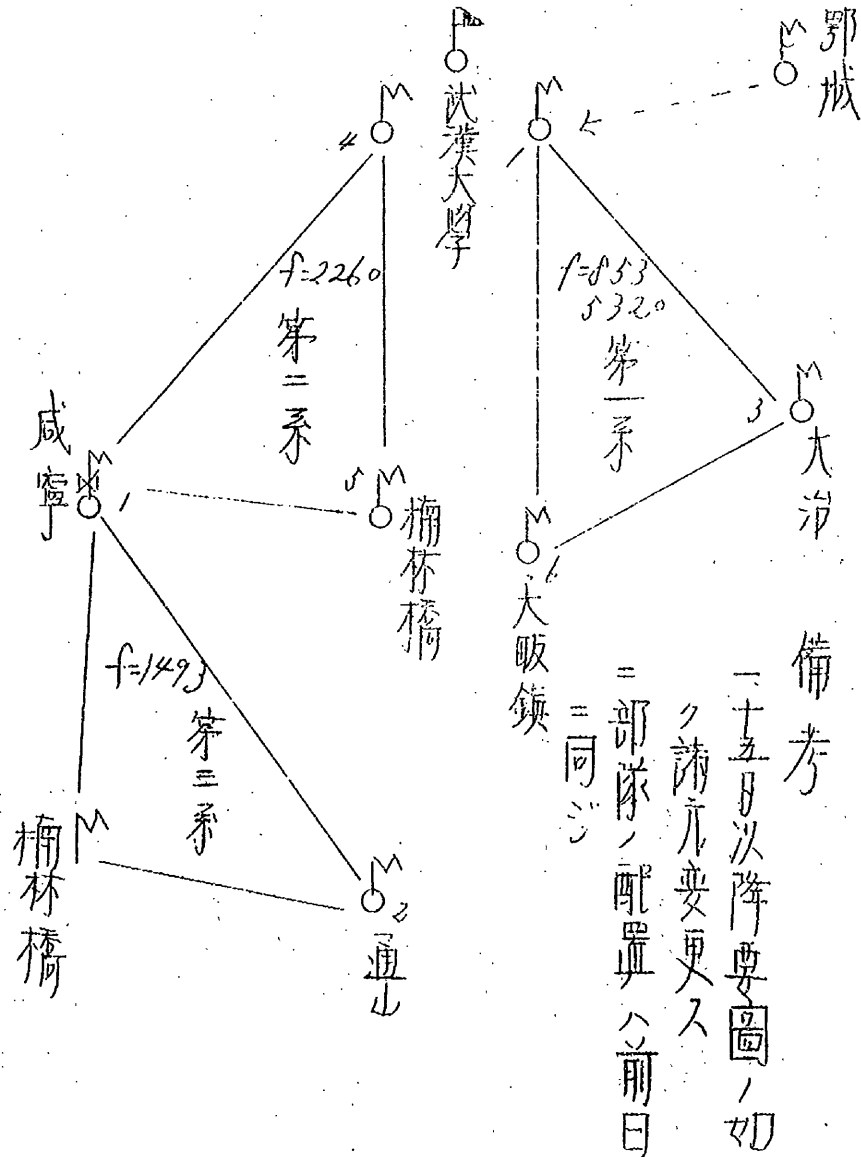
右地区討伐隊ハ第一隊情況不明ノ屬終日楠枋橋
ニ在リ無線第五分隊依然楠枋橋ニ在リテ連絡ニ
任ズ午前中ハ空界良好ナルモ十四時頃ヨリ雷雨ノ
屬空雷大トナリシガ能ク之ヲ排除シテ連絡ヲ確保
セリ十七時ニ至リ聯隊無線不通ノ屬一時小隊長
ノ命ニ依リ系ヲ變更シテ池田部隊ニ至急電報

ヲ四通送信ス十八時原ノ系ニ復シ再ビ連絡ニ在セ
 リ十九時空電稍小トナル電報輻湊シ明朝三
 時ニ及ベリ

左討伐隊同行無線第六分隊ハ七時連絡完了シハ
 時黃沙鋪出發石門峠ヲ越エ大取鎮ニ向フ途中ハ
 難路ニシテ馱馬ノ轉落スルコト三四ナリ石門峠ニ於テ
 田中大隊ト合シ大取鎮附近ノ敵ヲ撃テ退シテ十九
 時同部落ニ入ル眷杖故障ノ爲ニ二十時ニ至リテ連絡
 完了シ徹宵通信ニ仕ス空電ノ爲ニ連絡田着ヲ欠
 キ連日ノ疲勞ノ爲ニ極ム部隊ハ信田水ヲ挾ミ
 テ敵ト對峙セシガ歩兵ノ決死的渡河攻撃ニ依リ之
 ヲ撃テ退セリ

當日ニ於ケル無線通信網要圖ノ如シ

無線通信網粵圖 (於八月十五日夕)



八月十六日 晴天

右地区討伐隊ハ其ノ第一線ヲ以テ黄土崎馬頭山ノ線ヘノ前進ヲ準備ス本部ハ九時三十分楠林橋出發十二時寺下ニ到着ス五時ヲ以テ連絡ニ任ジアリシ無線分隊ハ本部ト行動ヲ共ニ十三時寺下ニ開設十四時連絡完了セシガ威低シ十五時十分部隊ト共ニ寺下出發十五時五十分末家祠ニ到ル寺下ノ失敗ニ鑑ミ大ナル空中線ヲ張りテ連絡ニ任ジ十七日一時閉所セリ感度良好ニシテ通信又円滑ナリ

左討伐隊ハ七時通山ニ向ヒ大畷鎮ヲ出發セシガ重師作命甲第四十號(本命合ハ十五日一ニ、ト下達ナルモ)及甲第四十一號(附録参照)ニ基キ十時陽新鎮ニ向ヒ轉進入途中山路險悪ニシテ前進意ノ如ク

ナラズ部隊ハ大畷鎮東北方ニ狩ノ山頂ニ於テ露宿營
 ス本部ハ其東麓ニテリ通信所ヲ附近無名寺ニ開
 設シ連絡開始ハ二十三時トナレリ其ニ感度良好ナラズ
 本日ニ於ケル通信網前日ニ同ジ

八月十七日 晴天

右地区討伐隊ハ主カラ以テ通信線ノ補修道路偵察
 及患者糧秣等ノ輸送ニ任シ其ノ本部ハ米家祠ニ在リ
 無線第五分隊ハ五時連絡完了シテ電報報ノ送受ニ
 任シ明十八日一時ニ及ブ終日空界良好ニシテ送受
 七十通ニ達ス

左地区討伐隊ハ不良ナル道路ノ掣子肘ヲ受ケ前進困
 難ナリ七時宿營地スル山頂ニ通信所ヲ移動シテ連絡
 ニ任ズルニ感度良好ナリ十二時三十分閉所前進ス十
 八時三十分陽新鎮ヲ通過シ大橋鋪ニ向フ夜ニ入り

駄馬ヲ河中ニ轉若セシメ通信機浸水セシガ辛クシテ實用
通信ニ支障ナキヲ得タリ

本日ノ通信網前日ト異化ナシ

八月十八日 晴天

右地区討伐隊ハ重師作命甲第四十二號(附録参照)
ニ依リ追撃大隊及野戦瓦斯隊ヲ原所屬ニ復歸ヲ
命シ主力ハ糧秣輸送道路補修並ニ之ガ掩護ニ任ズ本
隊ハ依然宋家祠ニ在リ無線分隊ハ六時連絡完了ス
本日空界良好ナルモ雷電報比較的少ナシ十四時連絡終
ルヤ小隊長ノ命ニ依リ左地区討伐隊ノ第六分隊ト
交信ス十四時五十分連絡完了シ十五時三十分送信終
リ原通信系ニ復シ二十四時ニ至ル
左地区討伐隊ハ四時三十分大橋鋪ニ到着ス支隊ハ
各隊ノ大橋鋪到着ト同時ニ其ノ編成ヲ解ケリ

九時上時十四時ハ所命ノ如ク連絡セシグ昨日夜行軍ニ
 於テ駄馬河ニ轉落シ番我ニ浸水セシ夕ノ十五時以降
 ヌニニリキワサイタルヲ以テスル連絡ハ不能ニ陥リ有線
 ニ依リ大橋舗大治間ノ連絡ヲ實地ニ無線隊三分
 隊ヲ中継トシテ司令部間ノ連絡ニ任ゼリ
 本日ノ無線通信簡別紙要圖ノ如シ

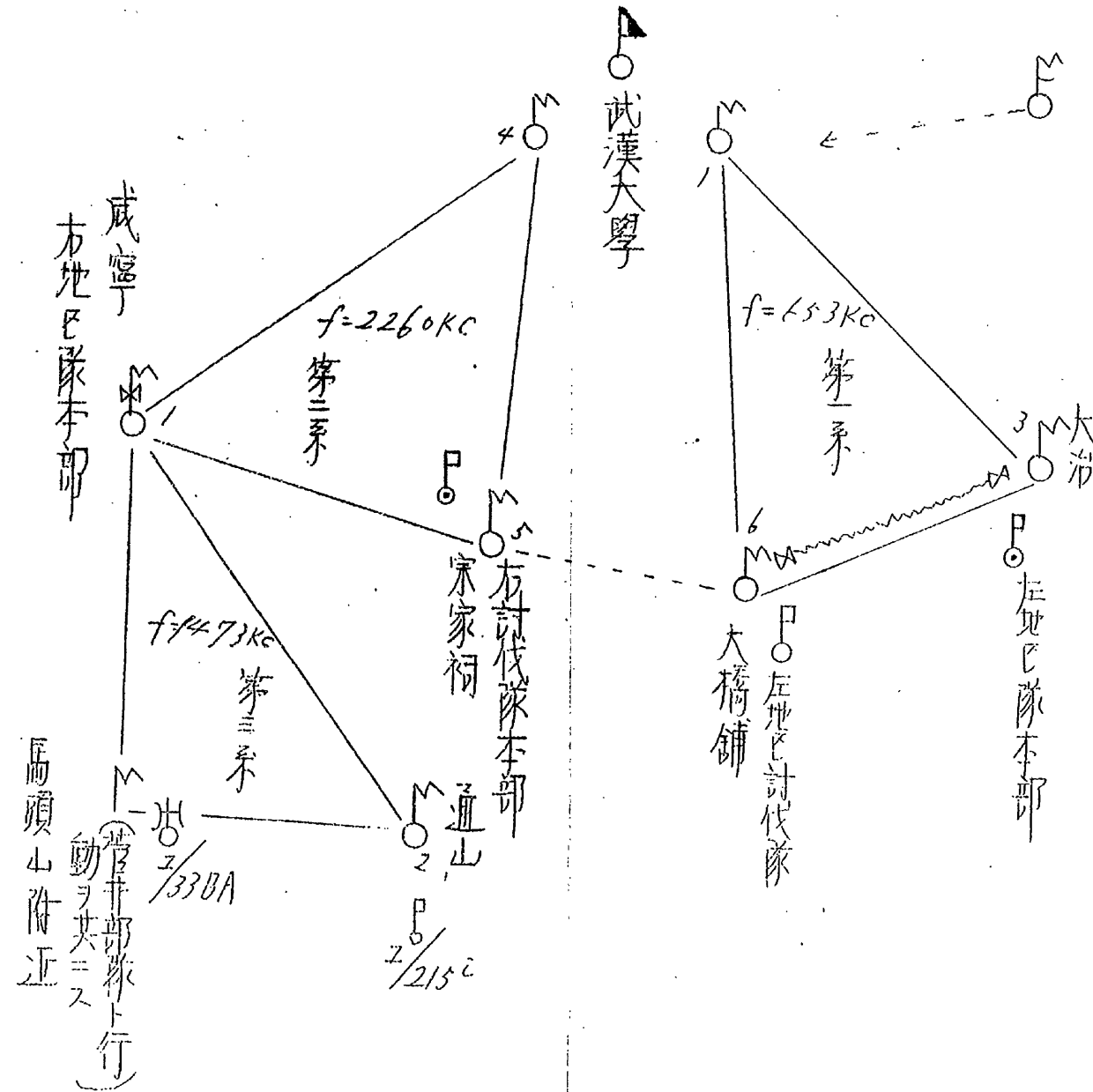
八月十九日 晴後雨

右地区討伐隊ハ引續キ道山ニ對スル軍需品ノ
 集積ニ任ジ其ノ本部ハ宋家祠ニ在リ無線分隊ハ
 依然連絡ニ任ズ空電アレ共連絡ニ支障ヲ來サズ
 第六分隊ハ大橋舗ニ在リテ七時九時十二時及十四時ニ
 開設シテ連絡ニ任ズ
 左地区討伐隊ハ支隊ノ編成ヲ解キ大治間何ヒ
 歸還ノ途ニツキニテ以テ大西部隊(歩兵隊三百十四隊)

圖 無線通信網要圖
(於十八日正午)

4880

備考
 一 第一系第六分隊器材浸水ニテ短波五三ニトKc使用不能
 二 第一系有線ヲ使用セリ
 三 第一系ハ小隊長命令ニ依リ十時五十分ヨリ十五時三十分ニ至ル間臨時ニ通信セリ



1021

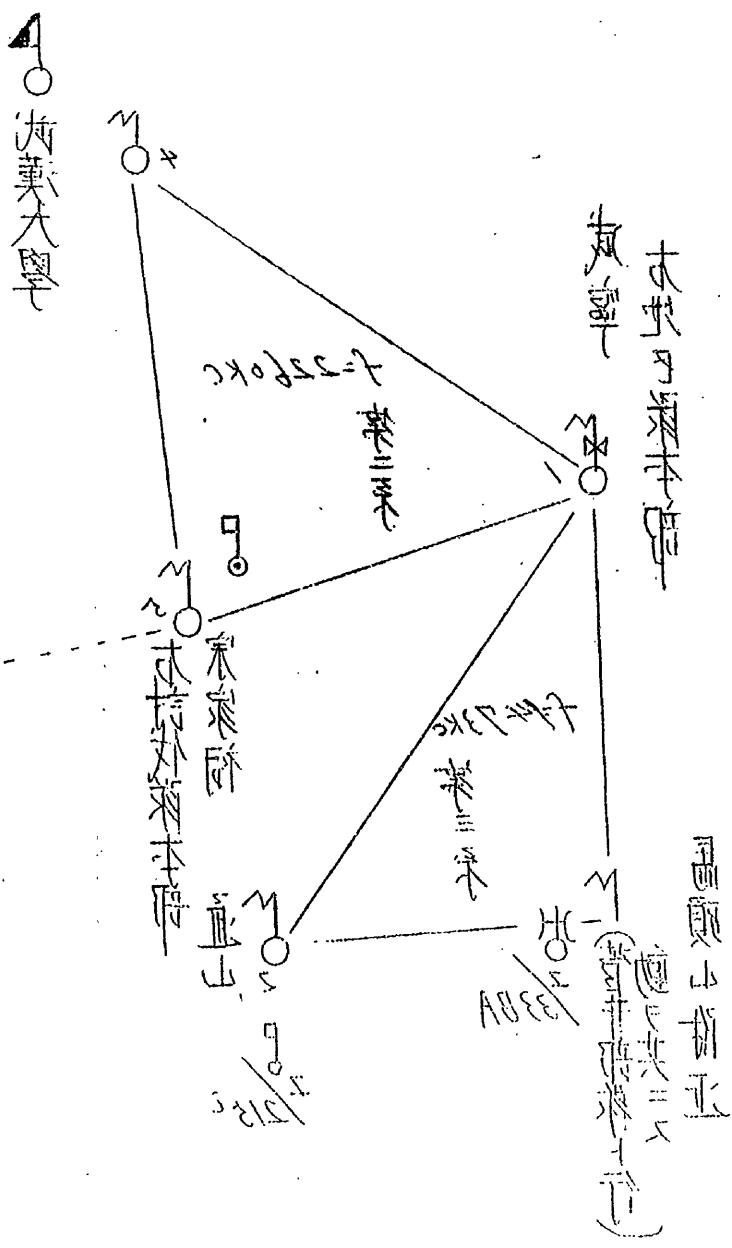
1050

圖号 1051

(五千日)

1883

大正三至八間 朝鮮の支配
 一 朝鮮の行政 朝鮮の行政は 朝鮮の行政は 朝鮮の行政は
 二 朝鮮の教育 朝鮮の教育は 朝鮮の教育は 朝鮮の教育は
 三 朝鮮の警察 朝鮮の警察は 朝鮮の警察は 朝鮮の警察は
 四 朝鮮の司法 朝鮮の司法は 朝鮮の司法は 朝鮮の司法は
 五 朝鮮の財政 朝鮮の財政は 朝鮮の財政は 朝鮮の財政は
 六 朝鮮の交通 朝鮮の交通は 朝鮮の交通は 朝鮮の交通は
 七 朝鮮の産業 朝鮮の産業は 朝鮮の産業は 朝鮮の産業は
 八 朝鮮の文化 朝鮮の文化は 朝鮮の文化は 朝鮮の文化は
 九 朝鮮の社会 朝鮮の社会は 朝鮮の社会は 朝鮮の社会は
 十 朝鮮の政治 朝鮮の政治は 朝鮮の政治は 朝鮮の政治は



第三大隊)ト行動ヲ共ニシテ十八時出發白沙鋪ニ向フ
本日ノ通信網前日ト変化ナシ

八月二十日 晴

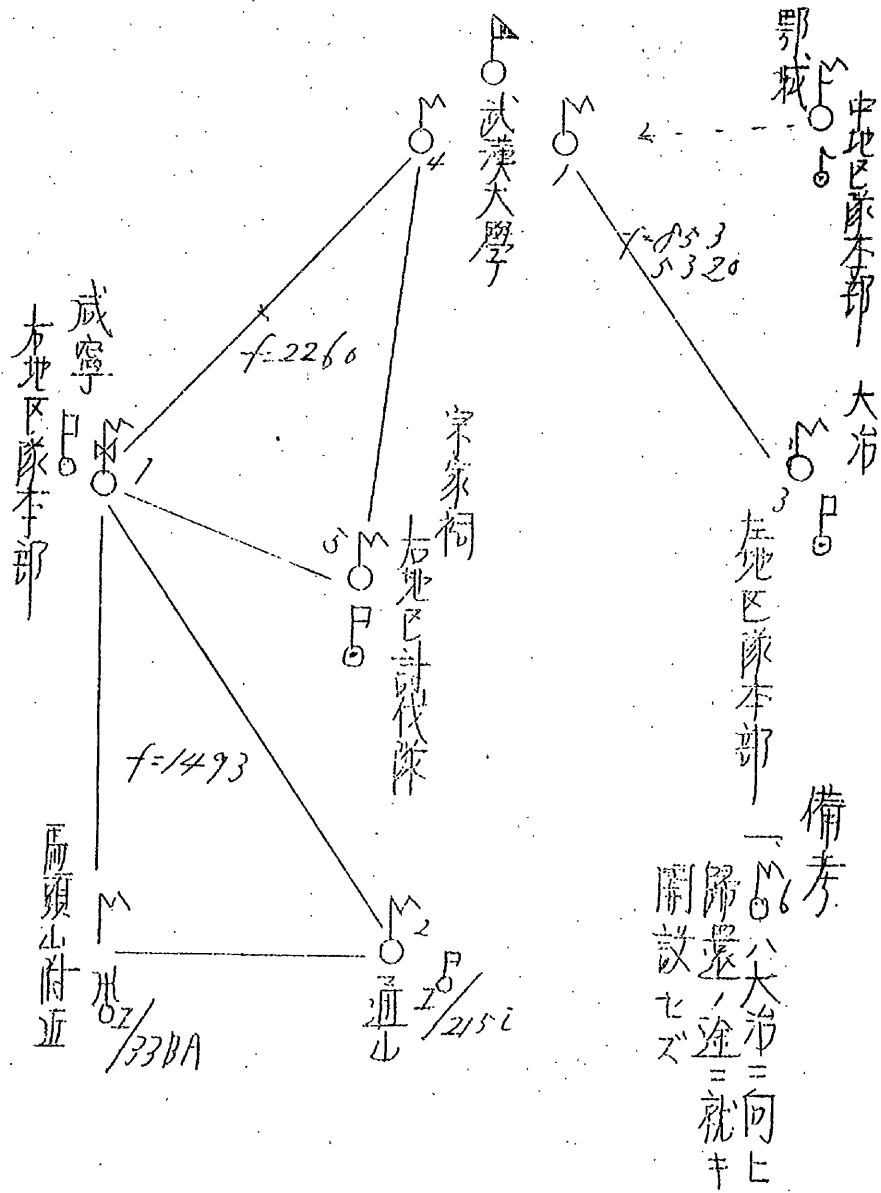
右地区討伐隊ハ通山ニ對スル軍需品ノ集積ニ任ジ
本部ハ米家祠ニ在リ無線分隊ハ五時ヨリ連絡ニ任
ズ土時頃ヨリ電報^カヲ輻湊シ送受九十通ヲ數ヘ
明三上日一時ニ及ベリ連絡概テ円滑ナリ

大西部隊ハ七時三十分白沙鋪ニ到着シ部隊ハ
大休止ヲナス器仗ハ宰領者ト共ニ自動車ニテ大
治ニ先行ス分隊ハ大西部隊ト共ニ十九時白沙鋪
出發夜行軍ヲ以テ歸還ノ途ニ就ク
本日ノ通信網左記要圖ノ如シ

左記

無線通信網要圖

(於二十一日正午)



八月三十一日 晴天

右地区討伐隊ハ軍需品ノ集積ヲ終了シ主力ハ夜
半楠林橋附近ニ集結セリ本部ハ日没後楠林橋ニ向
テ無線分隊ハ十七時四十分閉所シテ宗家祠出發
二十時三十分楠林橋ニ到着ス二十一時連絡ヲ完了
セリ空電ナル感度良好ナルモ二十四時頃ヨリ感度ノ
感度悪ク受信困難ニ陥リシガ連日連夜ノ疲労ニ
介意セス四時三十分ニ至ルマデ電報ノ送受ニ勉メ

タリ

無線第六分隊ハ大部隊ト共ニ二十時十分入浴ニ
到着シ江作命令第四十五號(附録参照)ニ基キ歸還
ヲ準備ス

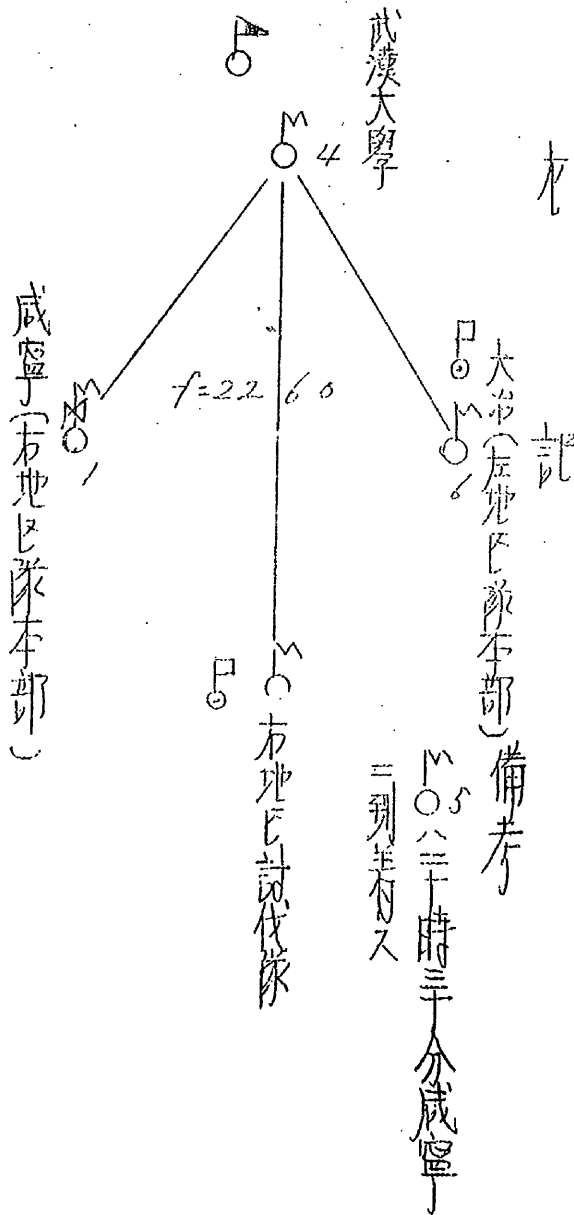
本日ノ通信網前日ト変化ナシ

八月三十一日 晴天

右地区隊討伐隊ハ沿道ノ敵ヲ掃蕩シテ、原駐地ニ何レ歸還ス五時連絡完了空界概不良好ナリ七時四十分分隊ハ分解搬送ニテ楠林橋出發小嶺ニ向フ酷熱ニシテ日射病ニテ倒アル、者少カラザルモ分隊一同志氣旺盛連日不眠ノ疲勞又酷熱ニ耐ヘ克チ本部ニ先行シテ十一時五十分小嶺ニ到着ス前方ニ方リ盛ニ砲聲ヲ聞ク十三時四十分小嶺山頂ニ開設ニテ連絡ニ任ズ十六時三十分本部ニ續行シテ同地出發十七時四十分杓敷通過二十時三十分咸寧ニ到着セリ及チ佐藤少尉以下江作命第四十五號(附録参照)ニ基キ武漢大學ヘノ歸還ヲ準備ス大治ニ於テ連絡ニ任シアリシ無諫第ニ分隊ハ正午第六分隊ト勤務ヲ交代シ江作命第五號(附録参照)依リ吉田曹長ノ指示ニ基キ武漢大學ヘノ歸還ヲ準備ス

無線通信網要圖

(於八月二十一日正午以降)



佐藤少尉は江作命令第六號(附録参照)ニ基キ作戰前ノ無線通信系統及諸元ニ變更ヲ命ゼリ
 武漢大學ヲ在リテ連絡ニ任シアリシ第一分隊ハ正午閉所ス
 本日正午以降ノ通信網凡記要圖ノ如シ

第五 自八月十一日至八月二十二日間無敵通信實施ノ景況

附表第一ノ如シ

第六戰鬪後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

本作戰ノ結果敵ハ其本據ヲ覆滅セラレ左地区ニ
蟠踞シアリシ第一九七師ハ四散分裂シテ大坂鎮西北方
地区及高橋市附近ニ散在シ第三師主力ハ横石澤
附近ニ逃走セルモノ、如シ又孔荷籠ハ洋港北方地区ニ
正沈^破匠ハ毛家鋪附近ニ向方歩舟ハ梁子湖沿岸ニ出
没シアルモ其行動活潑ナラズ

通山楠林橋方面ノ敵ハ我が討伐ニ依リ多大ノ損害ヲ受
ケ逃走セルモ討伐隊ノ撤退ニ伴ヒ再ビ警備隊ノ周辺ニ
出没シ各警備隊ハ一意之ヲ掃蕩中ナリ

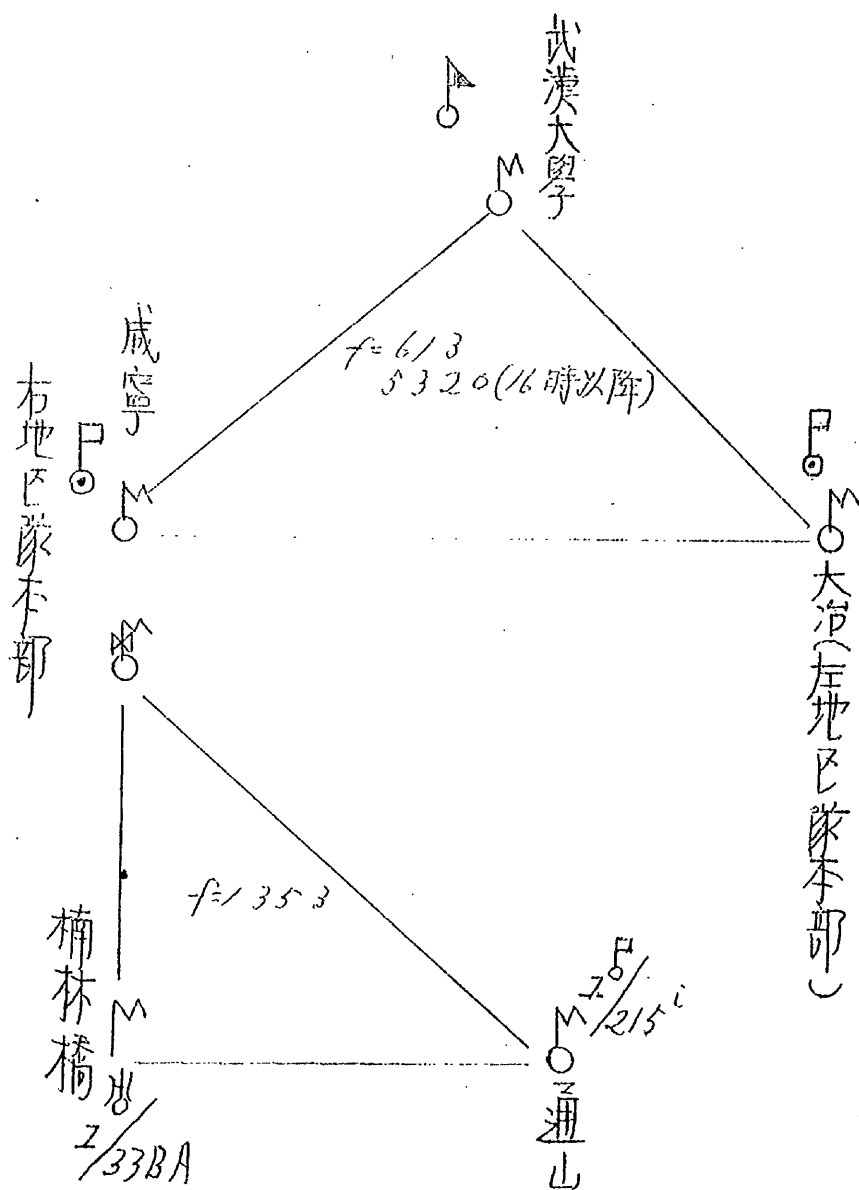
両地区討伐隊ハ重傷ノ作命ノ由リ第一及甲第四工
號(附録参照)ニ基キ左地区討伐隊ノ各隊ハ二丁一日

爾後各原駐地ニ右地ニ討伐隊ハ十七日以來通
 山及楠林橋附近ノ残敵ヲ掃蕩シツ、通山警備隊ニ
 對スル軍需品ヲ集積ヲ終了シテ二十日夜出發各
 原駐地ニ歸還シ爾後警備治安ノ強化ニ努メツ、ア
 リ
 本作戰ニ主動ニアリシ通信隊ハ江作命第四五號附
 録参照ニ基キ二十三日右地ニ協カノ佐藤少尉以下
 十七名ハ咸寧ヨリ鉄道輸送ヲ以テ左地区ニ協カノ吉
 田曹長以下十六名ハ連絡自動車ヲ以テ冬ノ武漢
 大畧ニ歸還セリ
 歸還後ハ通信系及諸元ハ原態勢ニ復セリ
 二十三日以降通信網尤ノ如シ有線通信ハ作戰
 前ヨリ変化ナシ

9680

無線通信網要圖

(八月二十三日以降)



第七 其ノ他將來ノ參考トナルベキ事項

一 空界ノ状態並ニ周波数ノ選定ニ就テハ自昭和十四年六月三日至同六月十三日 通山附近戦闘詳報中將來ノ參考トナルベキ事項ニ評述セルモノト考察ヲ要スセズ

ニ 本討伐間左地区方面ハ道路不良ニ加フルニ夏有氣甚シク体力ノ疲勞大ニシテ且林止時間不期ナル屬規定ノ連絡時刻ニ齟齬ヲ生ジタリ

ニ 本作戦間左右両地区ニ對シテ偵察隊ニ其ノ通信状況ニ著シキ差異アリ即チ右地区ニ良好ナルニ反シ左地区ハ不良ニシテ適時適切ナル命令ノ下達及至ハ報告口通報ハ得テ望ムベカラズ屬ニ戦闘指導ニ支障ヲ來セシコト少カズ其ノ原因ヲ探求スルニ右地区ハ部隊ノ行動緩ナルニ反シ左地区ハ機敏迅速

ナル屬停止シテ連絡ニ任ズル餘裕ナカリニ依ルナラシ
左ニ揚クル左地区討伐感察長濱田中佐ノ討伐教
訓ニ依ルモ疏通不良ノ原因ヲ推察シ得ベシ

支隊本部ト大河及武官の間ノ連絡ハ概ネ確
保シ得タルモ戦闘經過ノ関係上開設ニ連
節セシメタルハ一日概ネ一回ナリキ

三挺機五挺機ニヨリ縦隊間ノ連絡ヲ計畫
セシモ其ノ實部ニ於テハ連絡シ得ズ坂元田中
兩部隊ニ對シ二回モ無線ヲ以テ命令シ得
ズ專ラ其ノ行動計畫ニ基キ大隊長ニ未
任スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ

是各種ノ原因アルモ三挺機ト五挺機トノ
調整不十分ナリシニ密ルコト大ナリト

第三項ノ濱田中佐ノ所見ニヨリ更ニ大ナル原因

ハ規定ノ連絡時間ヲ恪守スル餘裕ヲ與ヘサリシ屬時
 間ニ齟齬ヲ生ゼシニ依ルベシ（聯隊通信隊無諍小
 隊長長ノ調不且）

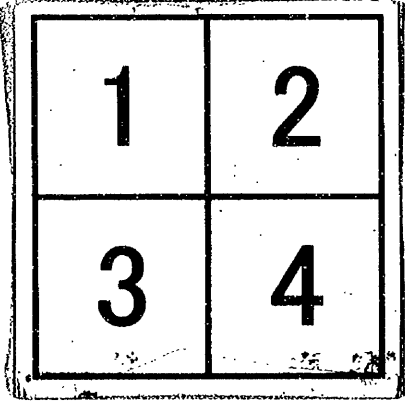
第一第六分隊ノ通信狀況別紙一覽表ノ如シ
 將來討伐通信ノ確保ヲ期スル屬ハ通信中樞ニ
 於ケル行動通信ノ實施不能ナルコトヲ前提トシテ
 尤ノニ法アリト思テ示セラル

ノ連絡時刻ヲ指定シテ通信ヲ實施セシム之カ屬ニ
 ハ各部隊長トハ通信部隊ニ對シ可及的便宜
 ヲ與フルコト必要ナリ

2. 連絡中樞ヲ定メ之ヲ中繼トシテ各部隊相
 互間ノ連絡ニ任ズ然レ共此ノ方法ハ時刻ヲ指
 定スルノ必要ナキモ通信容量ヲ増加シ却ツテ
 連絡ノ円滑ヲ欲クコトアルベシ

以上ノニ方法ハ狀況及通信部隊ノ兵力ニ依リ適
 宜取捨スベキモノナリト雖モ要ハ指揮官ノ連絡
 對スル著意ニ存シ手段ニ至リテハ其ノ機
 臨ミ適時適切ニ講ゼラル、モノナラン

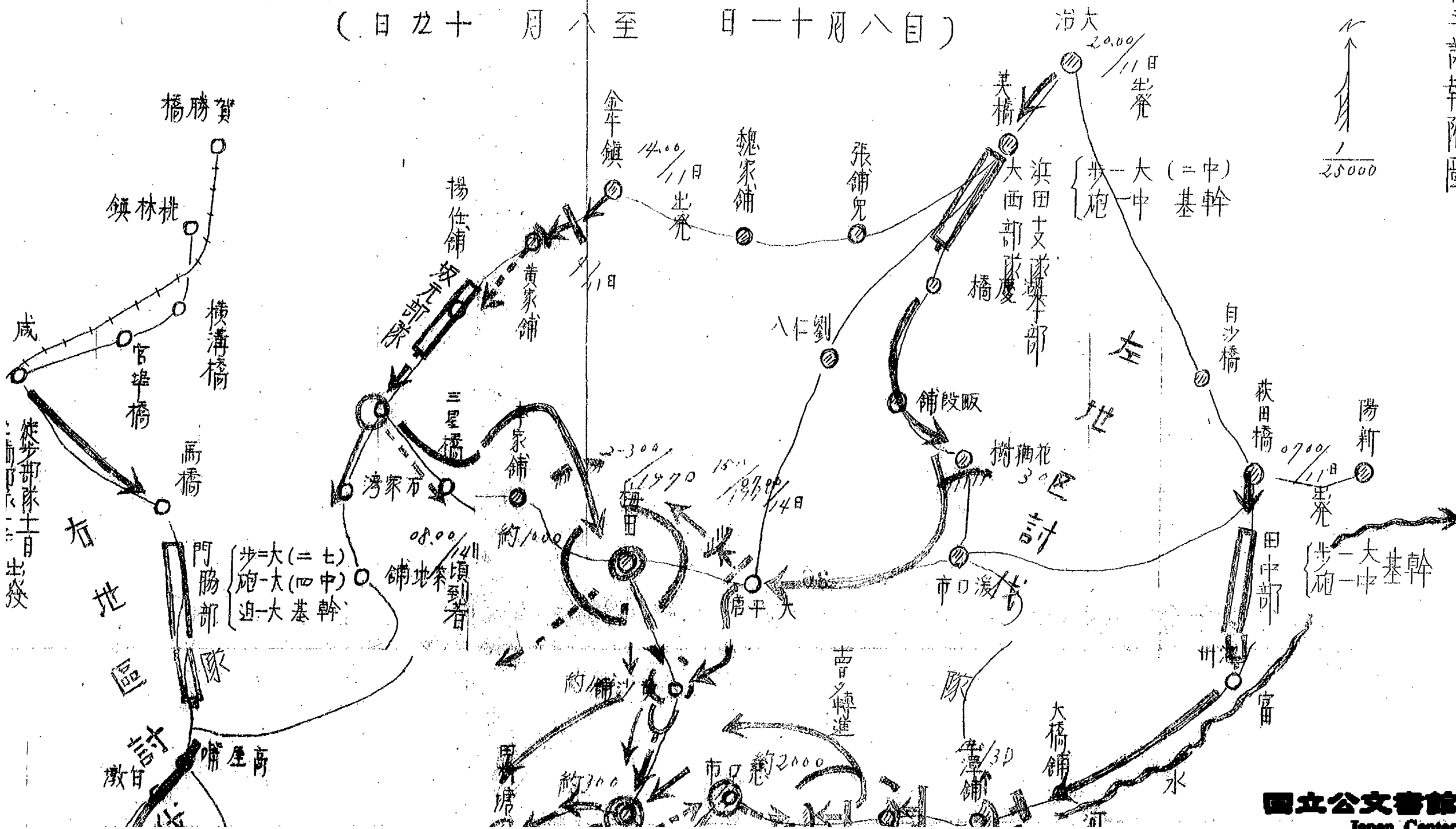
分割撮影ターゲット

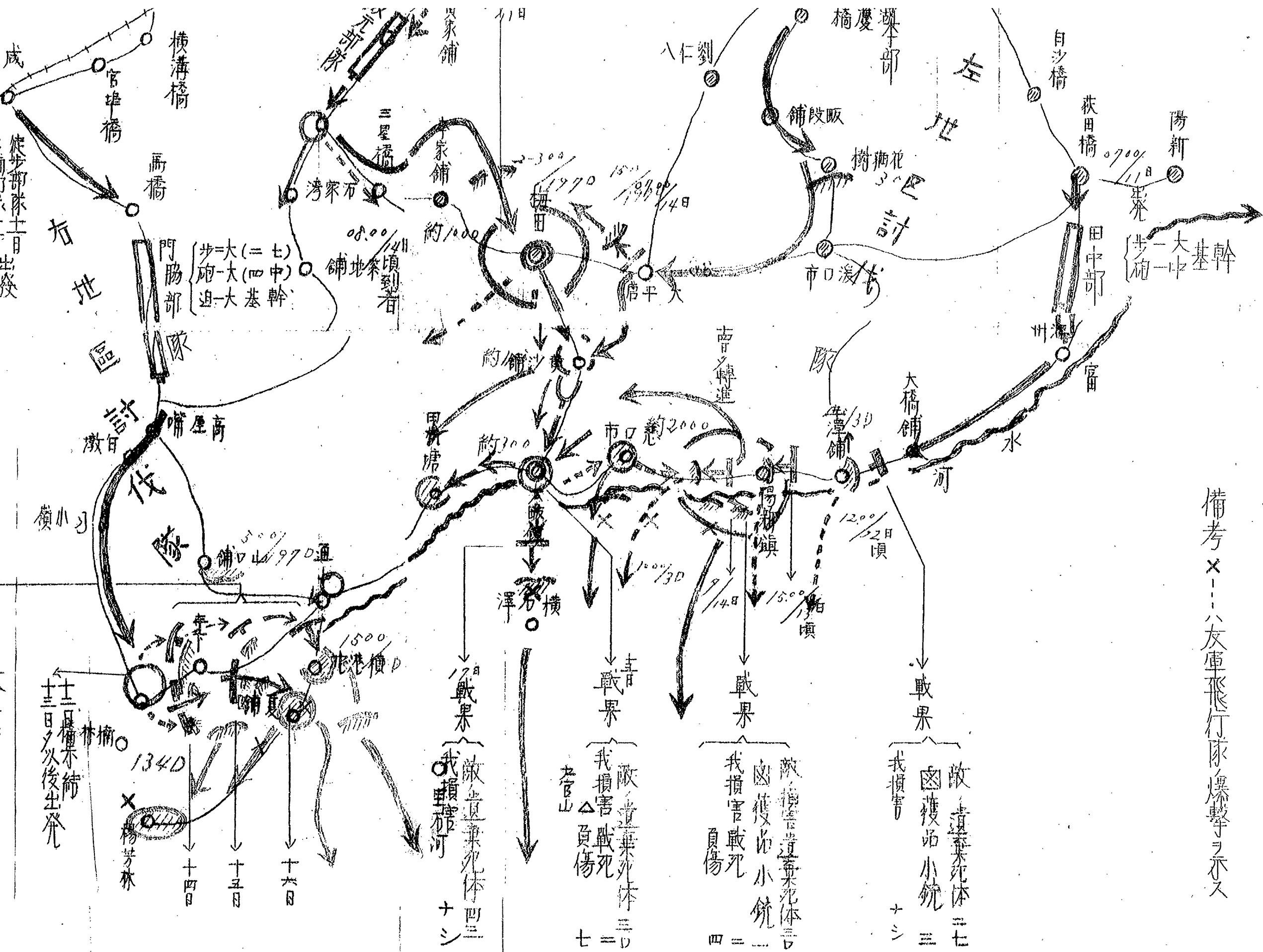
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	甘粕部隊富水河盃作戦々闘経過要因
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

甘肅部隊水河孟作戰之經過要圖

(自八月十一日至八月十九日)

戰鬥詳報附圖





備考×……八友軍飛行隊爆撃ヲ示ス

備考	四三二一 九八七六五四三二一 九八七六五四三二一 〇 〇																				日	月							
	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五			四	三	二	一	〇	〇	
○ 休止間 ○ 連絡完了 ~ 行動間 ▨ 開設中																											6	八二	
																												1	八一
																												6	八二
																												1	八三
																												6	八三
																												1	八三
																												6	八四
																												1	八四
																												6	八五
																												1	八五
																												6	八六
																												1	八六
																												6	八七
																												1	八七
																												6	八八
																												1	八八
																												6	八九
																												1	八九
																											6	九〇	
																											1	九〇	
																											6	九一	
																											1	九一	

富水河孟作戦間ニケル無線第一分隊通信状況一覽表

戦時詳報附表第一

自昭和十四年八月十一日 至昭和十四年八月十五日

無線通信實施果況表

電報取扱回数

電報取扱回数		空界ノ米況 及通信系	摘要
送	受		
計	計		
一	一		
二	二		
三	三		
四	四		
五	五		
六	六		
七	七		
八	八		
九	九		
十	十		
十一	十一		
十二	十二		
十三	十三		
十四	十四		
十五	十五		
十六	十六		
十七	十七		
十八	十八		
十九	十九		
二十	二十		
二十一日	二十一日		
二十二日	二十二日		
二十三日	二十三日		
二十四日	二十四日		
二十五日	二十五日		
二十六日	二十六日		
二十七日	二十七日		
二十八日	二十八日		
二十九日	二十九日		
三十日	三十日		
三十一日	三十一日		
三十二日	三十二日		
三十三日	三十三日		
三十四日	三十四日		
三十五日	三十五日		
三十六日	三十六日		
三十七日	三十七日		
三十八日	三十八日		
三十九日	三十九日		
四十日	四十日		
四十一日	四十一日		
四十二日	四十二日		
四十三日	四十三日		
四十四日	四十四日		
四十五日	四十五日		
四十六日	四十六日		
四十七日	四十七日		
四十八日	四十八日		
四十九日	四十九日		
五十日	五十日		
五十一日	五十一日		
五十二日	五十二日		
五十三日	五十三日		
五十四日	五十四日		
五十五日	五十五日		
五十六日	五十六日		
五十七日	五十七日		
五十八日	五十八日		
五十九日	五十九日		
六十日	六十日		
六十一日	六十一日		
六十二日	六十二日		
六十三日	六十三日		
六十四日	六十四日		
六十五日	六十五日		
六十六日	六十六日		
六十七日	六十七日		
六十八日	六十八日		
六十九日	六十九日		
七十日	七十日		
七十一日	七十一日		
七十二日	七十二日		
七十三日	七十三日		
七十四日	七十四日		
七十五日	七十五日		
七十六日	七十六日		
七十七日	七十七日		
七十八日	七十八日		
七十九日	七十九日		
八十日	八十日		
八十一日	八十一日		
八十二日	八十二日		
八十三日	八十三日		
八十四日	八十四日		
八十五日	八十五日		
八十六日	八十六日		
八十七日	八十七日		
八十八日	八十八日		
八十九日	八十九日		
九十日	九十日		
九十一日	九十一日		
九十二日	九十二日		
九十三日	九十三日		
九十四日	九十四日		
九十五日	九十五日		
九十六日	九十六日		
九十七日	九十七日		
九十八日	九十八日		
九十九日	九十九日		
百	百		

十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日
持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六	持 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六 一三六 二三六 三三六 四三六 五三六 六三六 七三六 八三六 九三六 〇三六
...	
...	
...	
...	

戦斗詳報附表第二

自昭和十四年八月十一日 第三十三師團通信隊死傷表
至昭和十四年八月三十一日

備考	計	率三小隊	指揮班	区 分	
				將 校 准士官 下士官 兵	將 校 准士官 下士官 兵
一 宿水河孟作戦中、左右両地区討伐隊ト 行動ヲ共ニシタルモノ、ミテ戦闘参加人員中 ニ計上シ、其他リアリテ通信勤務ニ服シタルモノハ 省界ス 二 戦死一 陸軍歩兵二等兵 伊藤 道雄 (十四日八時五分 於太平洋附近戦闘)	一	一	一	一	一
	二	二	一	一	一

考	備	無 隊 分	部		種類
			隊	分	
真空管ノ損耗ナシ		五九	包實銃	小	消費
		三	機輕収	押	彈藥
		二〇	銃三	角平	消耗
		七〇	銃八	— B	乾
		一七	銃九	= — C	電
		二六	銃四	角平	池

戦斗詳報附表第三
 自昭和十四年八月十一日
 至昭和十四年八月三十一日
 第三三師團通信隊彈藥電池損耗表

重師作命甲第三十八號

(附圖参照)

八月七日
武漢大戦

一、第九戰區司令 倭理 薛岳ハ各挺進軍及第九戰
 區各部隊ニ最近更ニ積極的行動ヲ要求セリ
 第一九七師ノ主力ハ依然梅田ヨリ大畷鎮附
 近ニ在リ
 第三師第一三三師第一三四師ノ一部ハ梅港
 沈夏鋪楊芳林附近ニ在ルモノ如シ
 二、師團ハ敵ノ機先ヲ制シ梅港沈及梅田附近一
 帶ノ敵ヲ急襲捕捉セントス
 第三飛行團ハ一部ヲ以テ師團ノ本作戰ニ協
 力スル筈
 三、右地區隊新ニ迫撃第三大隊獨立軽装甲車第
 九中隊野戰瓦斯第六中隊野戰瓦斯第六小隊
 トモヲ十日咸寧ニ於テ其ノ指揮ニ屬スハ歩

近ノ敵ヲ急襲捕提スベシ
 沙舖=向ツテ分進合撃シ
 | 慈口鎮 | 黃沙道沿フ地
 橋市 | 梅田道 | 荻田
 三從隊トナリ八月十日
 約三隊ヲ基幹トスル討伐隊ヲ編成シ概ネ
 在地區隊(無線線一機屬ハ歩兵約六中隊山砲兵
 バシ 八月十五日頃梅港沈附近ノ敵ヲ急襲捕提ス
 | 道及北山脚併行路竝高屋嘴 | 山梅港沈通
 山道ヲ各一部ヲ以テ楠林大橋通山梅港沈通
 ヲ以テ成寧 | 楠林大橋通山梅港沈通
 伐隊ヲ編成シ八月十日行隊ヲ開始シ主力
 兵約七中隊山砲兵十回中隊ヲ基幹トスル討

五、通信隊ハ本作戰間師團司令部ト兩地區討伐

隊間ニ無線通信網ヲ又九日迄ニ師團司令部

ト在武昌飛行場菅原部隊間ニ有線通信網ヲ部

構成シ之ガ連絡ニ任ズバシ

細部ハ別命ス

六、本作戰ヲ「あ」號作戦其ノ中特ニ石地區討伐隊

ノ討伐ヲ「か」號討伐隊ノ討伐ヲ「さ」

七、予ハ武漢大學ニ在リ飛行機ニ依リ兩討伐隊

ノ作戰ヲ視察指導ス

甘粕部隊長 甘粕重太郎

下達法 要旨口達後印刷交付

配布先 各部各隊 各一

送付先 呂集團五管原、澄田、稻葉、中井、藤堂

各

—

1076

1076

重師作命甲第三十八號其ノ二

甘粕部隊命令

一 予ハ明八月十四日軍ノ協力機

武入月十三日一ニ
漢大ニ
依リ「あ」號作

戰全地域内ヲ視察ス

二 岩元參謀高級副官及專屬副官ハ隨行スベシ

甘粕部隊長

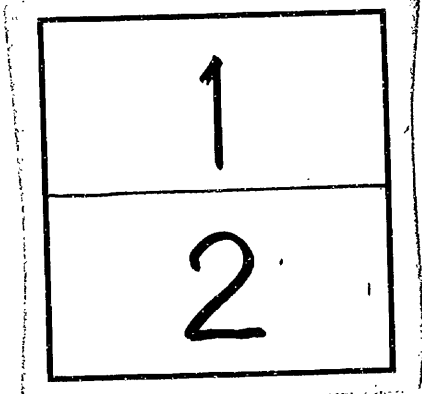
甘粕重太郎

下達法
口達後印刷交付

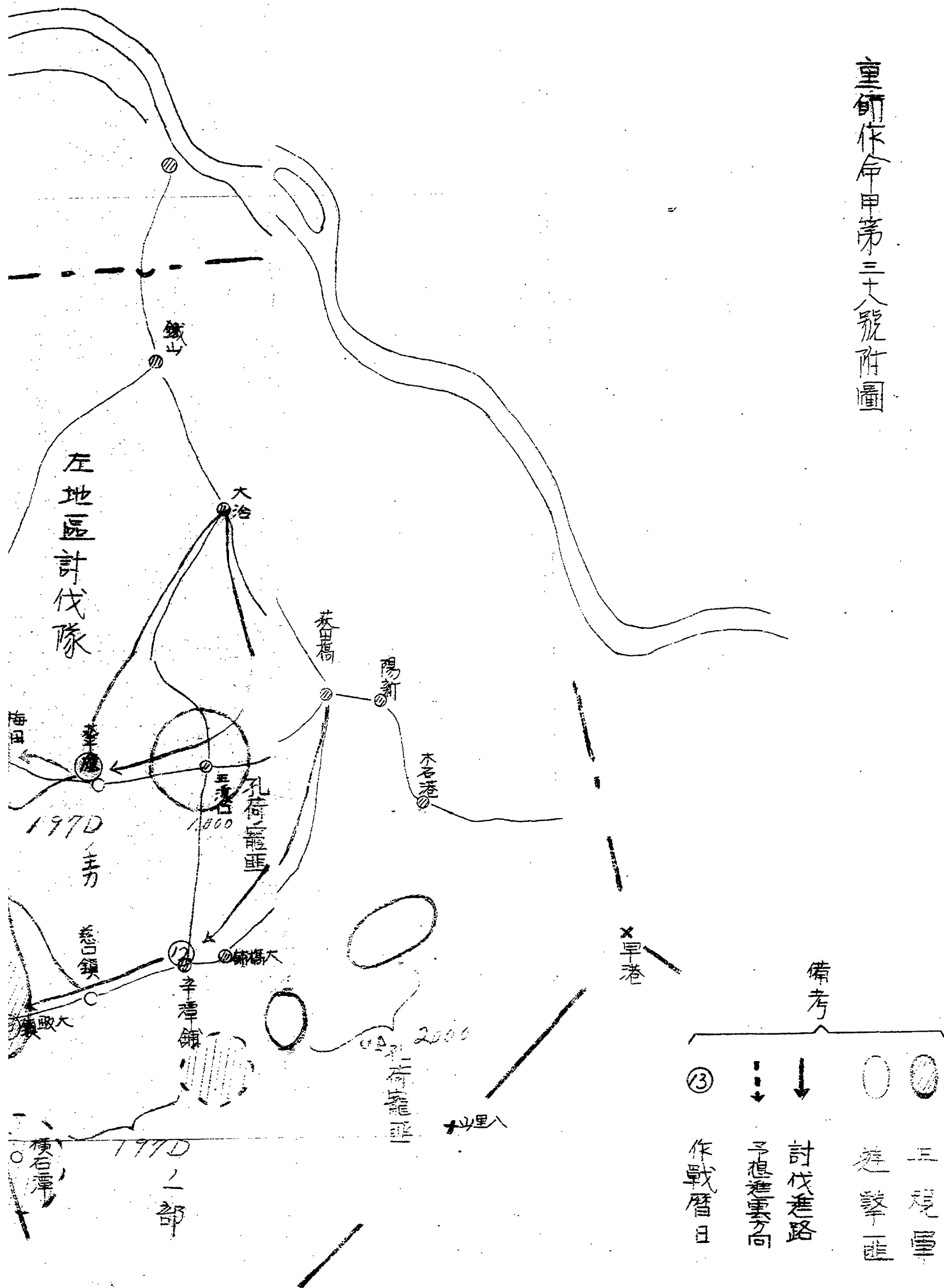
配布先
各部各隊各一

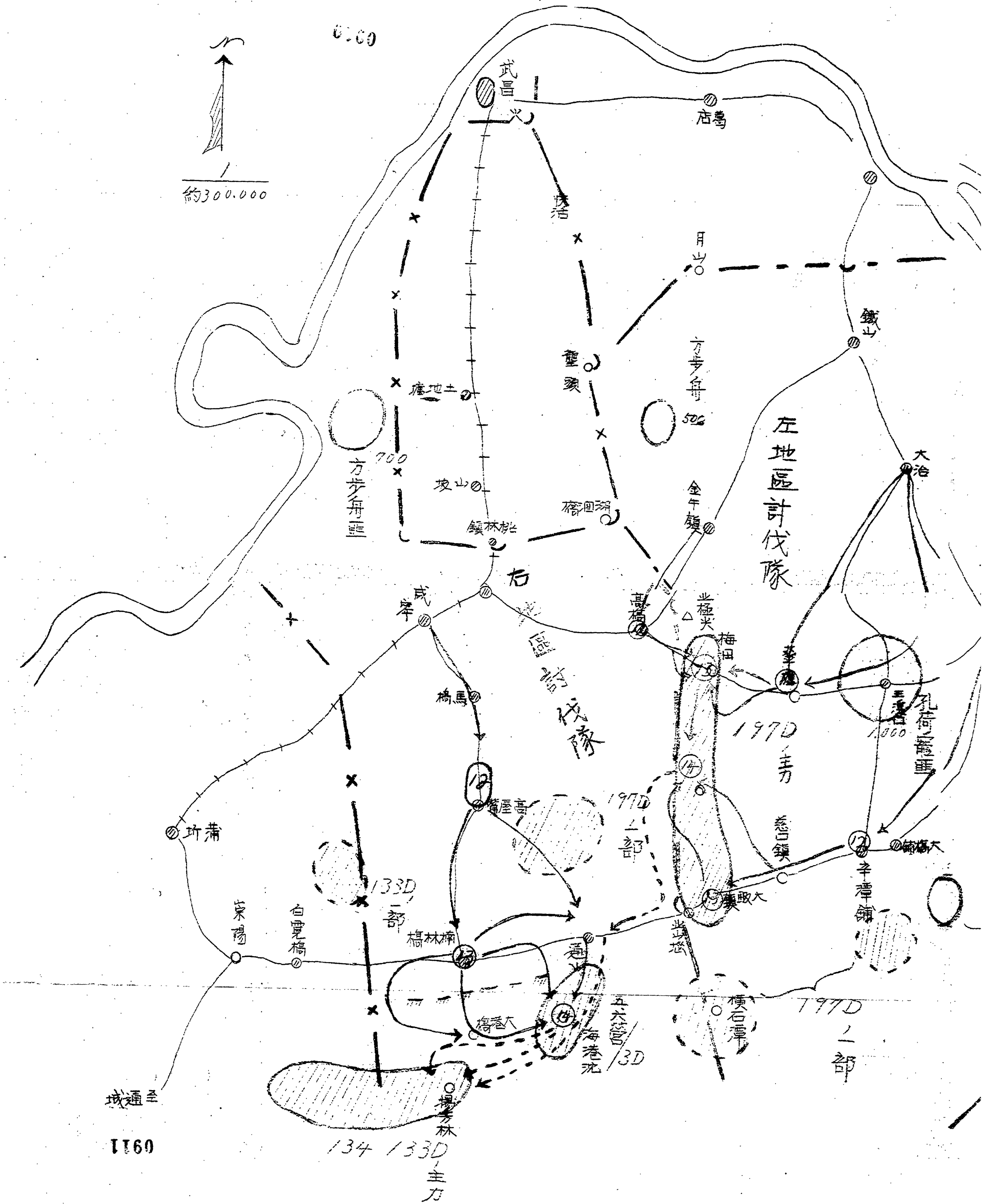
送付先
召集團ニ管原部隊一

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	重師作命甲第三十八号附図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

重師作命甲第三十八號附圖





城通至
1160

重師作命申第三十九號

甘粕部隊命令

八月十日 武漢大

一、[「]號作戦ノ包圍ハ貴隊ノ奮闘

依り着々成

果ヲ見シトシツツアルモ目下黃沙鋪附近ニ

蟬集申ノ敵主力ハ本十日日夜大坂鎮方面ヨ

リ南方ニ脱逸セント焦躁申ノ如シ

慈口鎮ニ陽新鎮對岸ノ敵陣地ハ本十四日迄

原進行團ニ於テ爆撃セリ

二、[「]號討伐隊田中大隊ハ分進等ノ手段ヲ盡シ

萬難ヲ排シ本十四日申ニ大坂鎮北方敵軍カ

ノ退路ヲ遮断スベシ

特ニ陽新鎮ニ夏家慈口鎮北方約三料ノ石門

味大坂鎮北方約五料道ノ迂回ニ努ムルヲ要

ス

三、[「]予ハ武漢大學ニ在リ

8160

送配 下
付布 達
先先 法

甘粕
部
隊長

呂各印 要
集部刷 旨
團各交 電
三隊付 話
菅各 茲
原各 二
部一 通
隊一 信
一 筒
一 投
一 下
一 後

甘粕
重
太
郎

45

1081

重師作命甲第四十號

甘粕部隊命令

八月十五日
武漢八三〇
管

原部隊ノ猛爆ニ依リ敵ハ多大ノ損害ヲ受ケ

遠ク南方山谷ニ潰亂逃避セリ

カ號討伐隊ハ大巴頭東方地區馬頭山中甲山

各々通山西方約五料附近ノ線ニ於テ當面ノ

敵ヲ攻撃中ナリ

二 敵ヲ號討伐隊ハ各々其ノ本來ノ警備地ヘノ歸

還ラ竊カニ準備スベシ

但シ坂元部隊ハ歸還ノ途次一部ヲ別命アル

迄高橋市附近ニ殘置シ該地附近ノ敵ノ掃蕩ニ

任ゼシムベシ

右諸隊歸還ノ時期ハ後命ス

三 予ハ武漢大學ニ在リ

予ハ武漢大學ニ在リ

9160

送配下
付布達
先先法

甘粕部隊長

稲葉 各 署
葉 集 部 旨
各 團 各 電
各 五 隊 話
一 管 後
粟 澄 各 印
田 中 井 藤 堂 刷 交 付

甘粕重太郎

50

1083

重師作命甲第四十一號

八月十六日一三〇〇
武漢大學

一、[「]號討伐隊ハ重師作命甲第四十號ニ基キ直

ニ原駐地ニ向ヒ歸還スベシ

要スレハ坂元部隊モ大橋鋪ヲ經由スルコト

ヲ得

ニ予ハ武漢大學ニ在リ

甘粕重太郎

下達法
要旨電話及電報後印刷交付

配布先
各部隊各一

送付先
各集團五管原、澄田、中井、藤堂

稲葉 右一

重師作命甲第四十二號

八月十七日ニシテ
武漢入ルヤ

一、カ「號討伐隊ノ奮闘ト管原兵團ノ積極的協力

= 依リ敵ハ遠ク南方ニ退避セリ

二、師團ハ本討伐ニ引續キ警備治安ヲ一層強化

セントス

三、石地區隊ハ概ネ原態勢ニ復歸スルト共ニ警

備配置及其ノ方法特ニ楠林橋ト通山道ノ常

時確保ニ関シ刷新ヲ期スベシ

別ニ高橋附近ハ一都ヲ以テ警備スルヲ要ス

四、石地區隊長ハ迫撃第三大隊獨立輕裝甲車第

九中隊野戰瓦斯第六中隊野戰瓦斯第六小隊

共ニ八月二十一日迄ニ原所屬ニ復歸セシム

ベシ

迫撃第三大隊以外ハ鐵道輸送ニ依ルモノト

8767

五、予ハ武漢大學ニ在リ
紐部ハ別ニ示ス
甘粕部隊長

甘粕重太郎

下送
送配
付而
先先

要旨電報後印刷交付
各部隊各一
呂集團五管系澄田稻葉藤室各

53

1086

重師作命丙第十五號(重師作命申第三十八號)

甘粕部隊命令

八月十七日
武漢大學

一 情況並ニ師團ノ企圖重師作命申第三十八號

ノ如シ

二 本作戰間ニ於ケル右及左地區濠無線通信網

別紙要圖第一ノ如シ

三 江原部隊ハ本作戰間其無線ヲ以テ別紙要圖

第九日迄ニ武漢大學ト在武昌滯行場管系部隊

間ニ有線通信網ヲ構成シ通信連絡ニ任ズベ

四 予ハ武漢大學ニ在リ

甘粕部隊長 甘粕重太郎

0369

送配下
付布達
先先法

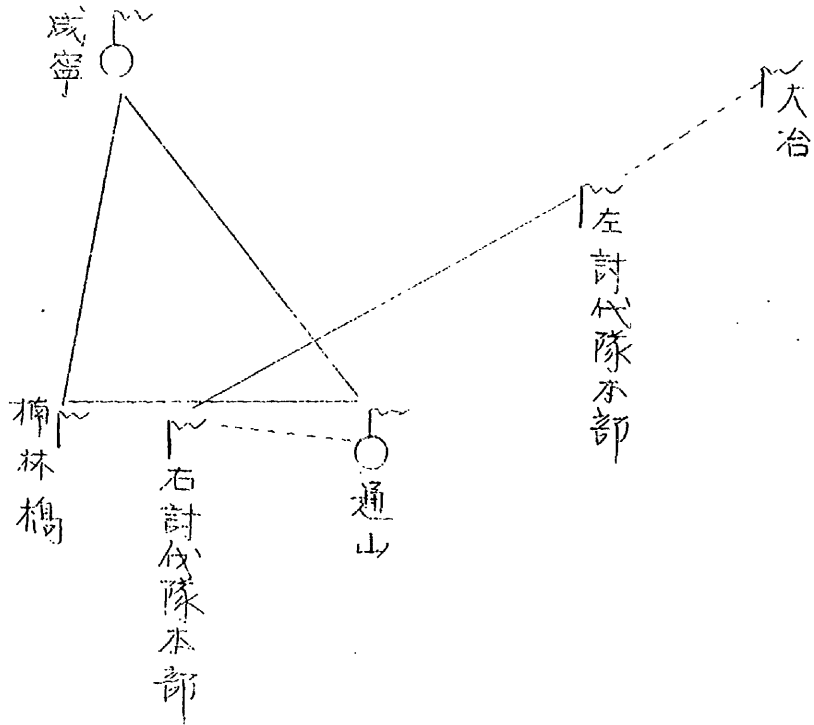
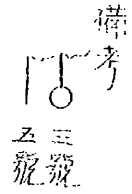
岡各口
村部達
部各後
隊隊印
各交
三一付

53

1088

右及左地區隊無線通信要圖
(本卷作戰間洽)

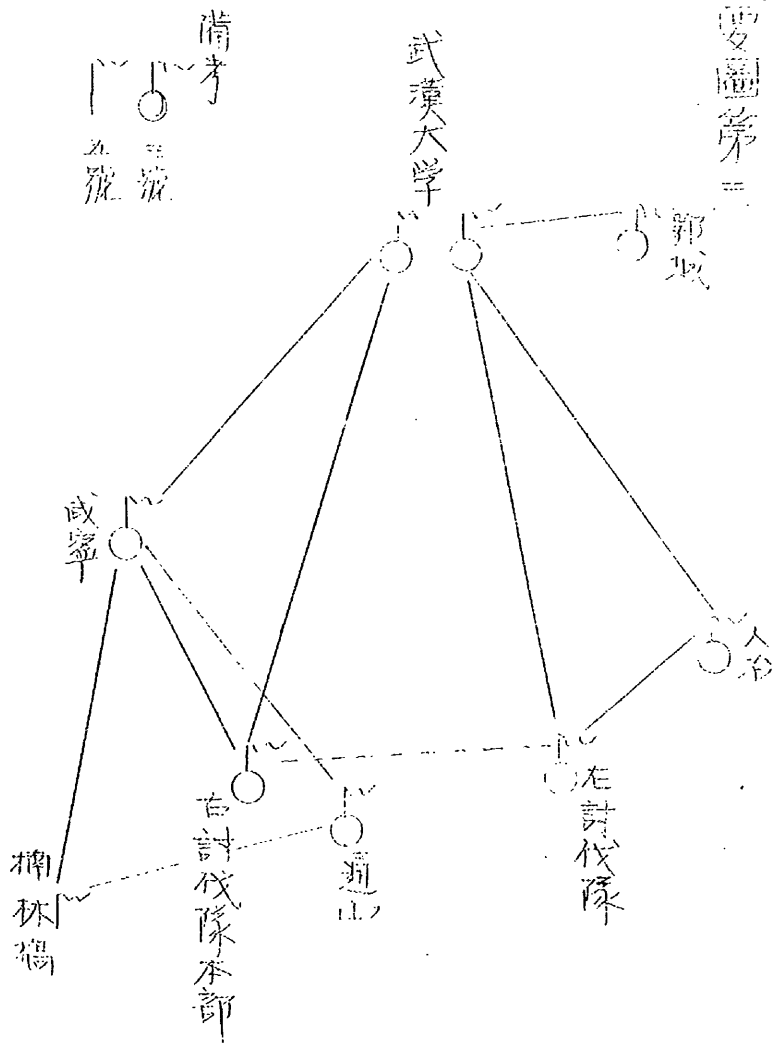
別紙要圖第一



2260

通信隊無線通線要圖

別紙要圖第三



57

1090

江作命第四十三號 (重作命甲三十一號) 丙十五號

江原部隊命令

八月七日ハハハ

一、敵ハ最近積極的ニ行動シ其ノ主力ハ梅田ヨリ大畷鎮附近及梅

港沈揚芳林地區ニ在リ

師團ハ敵ノ機先ヲ制シ梅港沈及梅田附近ノ敵ヲ急襲捕

捉セントス

菅原部隊飛行隊ニ部ヲ以テ師團ノ作戰ニ協力スル等

石地區討伐隊ハ八月十一日行動ヲ開始シ主力ヲ以テ咸寧

楠林橋一六港橋一梅港沈一通山道ヲ梅港沈ニ向ヒ

作戰ス

左地區討伐隊ニ號無線機搜索隊ヨリ配屬ハ三縦隊トナリ

八月十一日行動ヲ開始シ其本部ハ大治一八平塘一梅田道

ヲ梅田ニ向ヒ作戰ス

本作戦ヲハ號作戰其中特ニ石地區討伐隊ヲハ號討伐

右地區討伐隊ヲハ號討伐ト稱スルコトヲ得

- 師團長ハ武漢大學ニ在リ飛行機ニ依リ西討伐隊ノ作戦ヲ
視察指導ス
- 二 師團通信隊ハ本作戦間別紙要圖ノ如ク通信系ヲ一部變更
並ニ新設シ新ニ師團司令部ト西地區討伐隊間ノ無線通信連
絡ニ又九日迄ニ師團司令部ト在武昌飛行場菅原部隊間
ノ有線連絡ニ任スルト共ニ依然任務ヲ續行セントス
- 三 渡邊中尉ハ咸亨有線通信所ニ更ニ一分隊ト電話機五個ヲ
増加シ門協部隊ニ協力セシムベシ
- 四 江藤少尉ハ九日迄ニ武漢大學師團司令部ト在武昌飛行場菅
原部隊間ニ有線電話網ヲ構成シ連絡ニ任ズベシ
- 五 佐藤少尉ハ別紙要圖ノ如ク無線通信系ヲ變更スルト共ニ西
地區隊主力ニ續行スル分隊ノ兵力ヲ増加シ其ノ通信ヲ確保
シ行動ヲ容易トシムベシ
- 佐藤少尉ハ「號討伐隊ト行動ヲ共ニシ第一ニ系第三系ノ指揮
並ニ指導ニ任ズベシ

六、吉田曹長ハ「ヤ」號討伐隊本部ト行動ラ共ニ第一系及配屬

無線分隊(搜索隊ヨリ右地區ニ配屬)ノ指導ニ任ズベシ

七、無線通信系変更ハ八日十三時トス

佐藤少尉ハ無線通信ニ関スル細部ヲ部署スベシ

八、派遣部隊ハ左ノ如ク出発兩地隊ト通信ノ協定及宿管給

養ニ関シ連絡スベシ

右地區隊方面

九日

指揮官

佐藤少尉

左

八日

吉田曹長

九、編成及細部ニ就テハ別ニ示ス

十、予ハ武漢大學ニ在リ

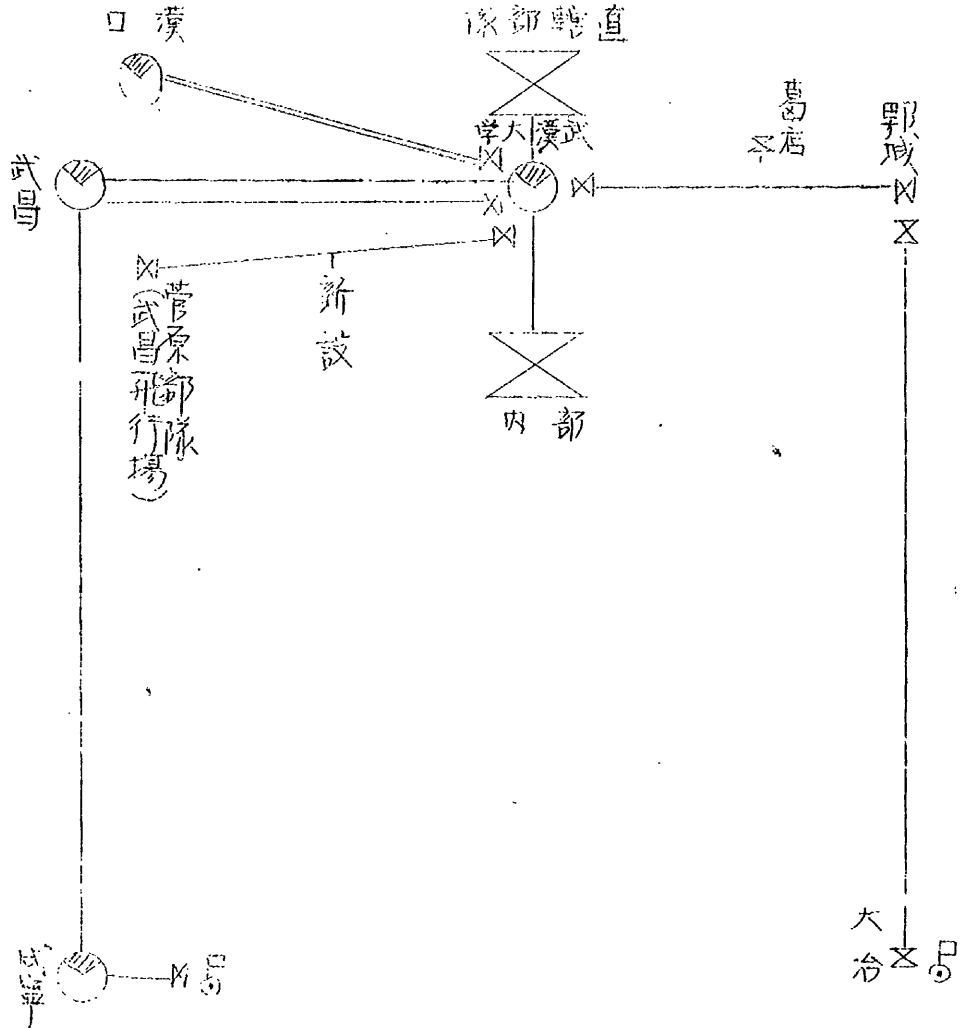
江原部隊長

江原 亨ニ

下達法 各小隊長ヲ集メ要旨ヲ下達後印刷交付

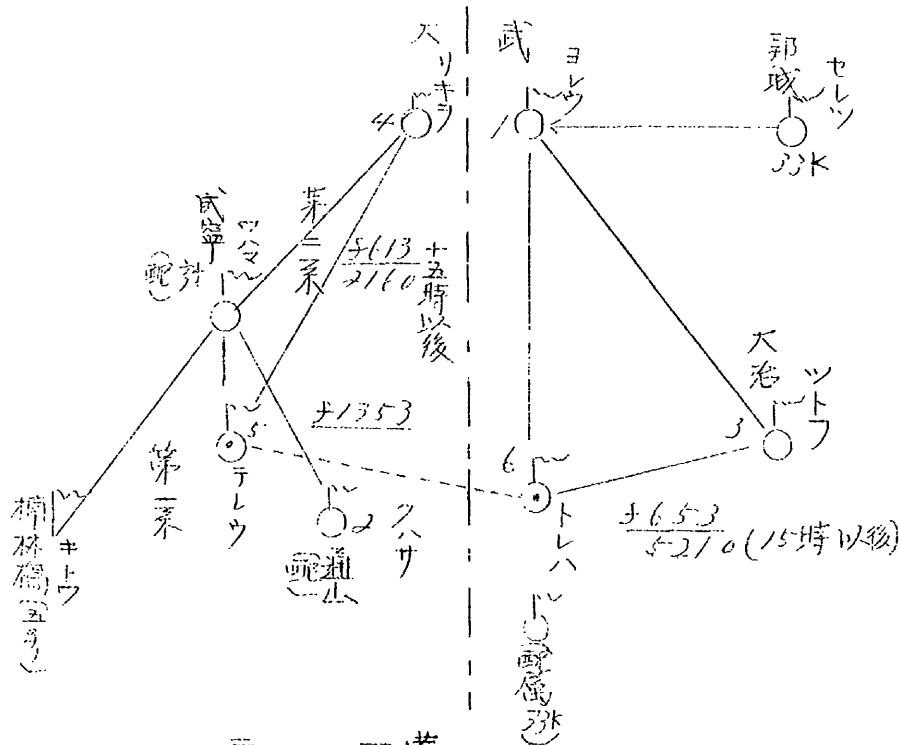
9360

有線通信網要圖



1094

無線通信網要圖



備考
 一 連絡時刻ハ右ノ如ク示スモ通信所
 毎時受信態勢ニアリゆキキトキハ止
 二 計代隊本部間ニ于テ機ヨリ無線
 連絡ハ武漢大學中継ヲ本則トス

通信連絡時刻		
第一系	第二系	第三系
6	7	8
8	9	10
11	12	13
14	15	16
17	18	19
21	22	23
		24

江作命第四十五號(重作命申第四十四號)

江原部隊命令

八月十八日 一七〇
武漢大

一、敵ハ兩地區討伐隊ノ奮斗ト菅原兵團ノ協カトヨリ多大ノ損害ヲ蒙リ悉ク南方ニ退避セリ

師團ハ今次「あ」號作戦行動ニ依リ甚大ノ戦果ヲ收メ原駐地ニ復スルト共ニ警備治安ヲ一層強化ス

右地區隊ハ新ニ一部ヲ以テ高橋市附近ヲ警備スル事

ニ江原部隊ハ兩地區討伐隊本部原駐地帰還ニ伴ヒ速ニ協カ又ハ増加部隊ヲ武漢大學ニ歸還セシムルト共ニ討伐前ノ通信系ニ復シ舊任務ヲ續行セントス

三、佐藤少尉ハ咸定再ニ到着セバ右地區隊ニ配属及協カセシ通信狀況行動及其ノ他ニ関シ門脇部隊ト所要ノ協定ヲ遂ケタ

ル後テ武漢大學ニ歸還スベシ

四、吉田曹長ハ大右到着後左地區隊ニ協カセシ通信狀況行動戦死者及其ノ他ニ関シ佐藤部隊本部ト所要ノ協定ヲ遂ケタル後武漢大學ニ歸還スベシ

△ 歸還日時ハ佐藤少尉 吉田曹長ニ於テ決定シ報告スベシ
△ 予ハ武漢六箇十ニ在リ

江原 部隊長

江原 亨一ニ

下達法

要旨ハ佐藤少尉 吉田曹長ニ電語シ後関係者及同

部隊ニ印刷配布ス

注意

特ニ戦斗詳報功績資料並ニ戦死ノ件ニツキテハ十分週
絡スベシ

江作命ヲ四十六號

江原部隊命令

八月二十三日
武漢大野

佐藤少尉ハ「あ」號討伐終了、依リ八月二十三日
正子ヨリ「あ」號作戦前、無線通信系及諸之ニ
更スバシ

江原部隊長 江原亨二

下達法 無線ニ依リ傳達ス

1860

戦斗詳報附録第二

宍田水河孟作戦出動部隊編成表 一四ハ通信隊
茅三通信隊

小隊長少尉佐藤道夫 傳令上等兵石堂武志

附曹長吉田義史

無敵隊第五分隊 無敵隊第六分隊 聯隊通信隊協力人員

長軍曹岡田徳一郎 長上等兵岡田與吉 一等兵倉田貞

上等兵市川正三 同 白石司 一等兵櫻井春久

同 永田哲郎 一等兵遠藤源十郎

二等兵久川弥一郎 海野直次

水石貞市 金澤橋太郎

内田正夫 伊藤道雄

小林今朝重 片野實生

荒木茂 赤池七郎

橋本幸之助 油井吾郎

小須田英一 浅野秋男

五十嵐八郎

(左地区) 本隊 (大沼)			(右地区) 本隊 (咸寧)			師團司令部 (武漢大學)					
通信所勤務員			通信所勤務員			交代所勤務員					
長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍
小柳	根津	加藤	小藤	熊一	織田	仲田	土子	渡辺	天野	渡辺	近藤
芳二	辰三	善春	藤善	一善	熊一	織田	仲田	土子	渡辺	天野	渡辺
榮二	榮三	榮春	藤善	一善	熊一	織田	仲田	土子	渡辺	天野	渡辺
隊分三	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一
長	上	伍	長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍
菅原	植木	西那	星野	早女	金井	大川	大橋	岡田	菅原	植木	西那
興平	益榮	三男	作治	利夫	義治	廣平	武夫	田一	菅原	植木	西那
隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一
長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍
石泉	赤間	遠藤	増田	富山	小澤	川上	荻原	小林	山田	石泉	赤間
未太	勇	亨	芳夫	政雄	秋雄	常夫	修	元次	元次	石泉	赤間
隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一
長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍	長	上	軍
大関	石丸	商木	岡田	上岡	小島	飯島	飯島	飯島	飯島	飯島	飯島
長二	敏吉	秀吉	信夫	千夫	太夫	太夫	太夫	太夫	太夫	太夫	太夫
隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一	隊分一